

令和元年 製品安全対策優良企業表彰 受賞企業講演会
ゴールド企業講演 資料

YKK AP株式会社



ファスニング事業・AP事業を中核としたグローバル事業経営体制



世界72カ国/地域 108社(555拠点)

○ 国内19社(242拠点)

○ 海外89社(313拠点)

※2019年3月末

■YKK精神・経営理念・YKKコアバリュー

YKK精神

「善の巡環」

他人の利益を囚らずして自らの繁栄はない

経営理念

「更なるCORPORATE VALUEを求めて」



コアバリュー



絶えざる「挑戦」を通じた
人づくり



顧客にとって価値ある
「品質」を実現する
モノづくり



「信用・信頼」が結ぶ
社会との長期にわたる強い
関係づくり

社員一人ひとりが大切に、実践する価値観であり、日々の行動の基準となるものです。



窓



玄関ドア



エクステリア



ビル



リフォーム



産業製品

富山県黒部市:黒部地区(27万坪)



黒部越湖製造所
(7万坪)



黒部製造所
(10万坪)



黒部荻生製造所
(10万坪)



東北製造所
(22万坪)

北海道工場



滑川製造所
(20万坪)

埼玉窓工場 2011年7月操業



九州製造所
(10万坪)



岡山工場

三重工場

埼玉工場

六甲窓工場

四国製造所
(10万坪)



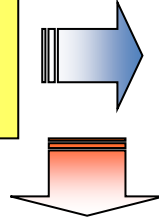
国内拠点 198拠点 (内、製造拠点 24拠点)

※2019年3月末時点

■YKK AP『製品安全設計の考え方』

製品安全確保の基本姿勢

事業者と消費者では、製品に関する知識や情報に、量的にも質的にも歴然とした差が存在する場合が多い。



事業者と消費者では、「正しい使用」と「誤った使用」の認識に差が生じる。

誤使用により発生した事故のすべてを消費者の責任であると安易に判断をしない。

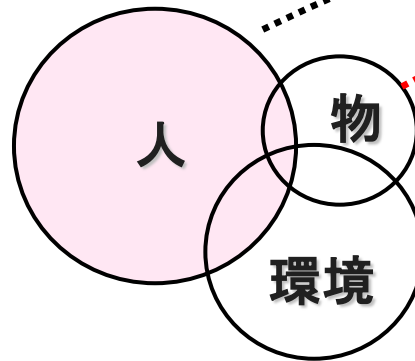
NITE誤使用事故防止ハンドブックより

YKK APの「製品安全設計の考え方」

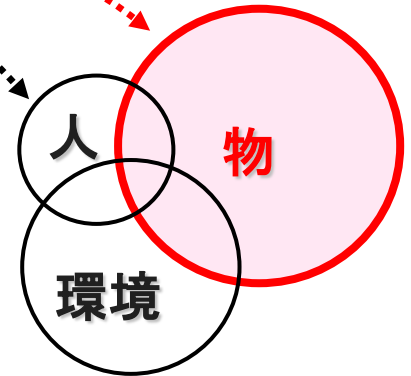
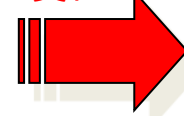
- ① 人的動作で商品が人に危害を与えないこと
(特に【誤使用】に関する予見範囲を拡大して対応をとる)
- ② 自然環境下で商品が人に危害を与えないこと
- ③ 経年変化で商品が人に危害を与えないこと
- ④ 商品改造で商品が人に危害を与えないこと

【以前】

【現在】



責任



何でも『人』のせい

「あなたが悪いから事故になった」

無知 不注意

人間の弱さは

『商品』側でカバー

「うっかり」「錯覚」「勘違い」「近道心理」

配慮不足 商品欠陥

2010年度（第4回） 1回目

自社で構築してきた、製品安全に対する会社の取組みが、世の中でどのレベルにあるのか確認したい。また、これに携り日々努力している人達と共に自信を持って進みたい。

2014年度（第8回） 2回目

2017年度（第11回） 3回目

審査委員から頂戴したコメント(課題)を受け、取り組んできた内容や方向性があるか。自社の取組みが停滞していないか、世の中のレベルについていっているのか確認したい。

■製品安全対策優良企業表彰について

2010年度（第4回） 経済産業大臣賞受賞

【受賞のポイント】

- ユーザーの生活行動を踏まえた製品開発の実施
- 製品の実環境試験によるリスク検証
- 施工業者の意識啓発による事故防止



2014年度（第8回） 経済産業大臣賞受賞

【受賞のポイント】

- 生活者検証の強化
- 複合的な環境要因によるリスク検証
- 安全に使用・メンテナンスするための情報伝達



2017年度（第11回） 経済産業大臣賞受賞

【受賞のポイント】

- フィールドエンジニア参画による現場の実情を反映した安全設計の実現
- 社内外の関係者への製品安全実現のための技術力の確実な伝承
- 製品安全文化を継続的に育む仕組みと実践



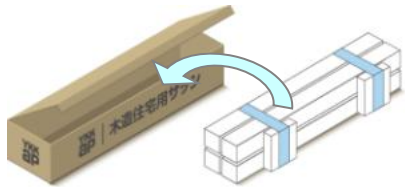
■ 建材商流における製品安全対策

住宅分野の例

YKK AP 窓・サッシの開発・製造

開発・製造段階での製品安全対策

サッシ事業 (部材販売)



窓事業 (完成品販売)



ガラス入り
完成品



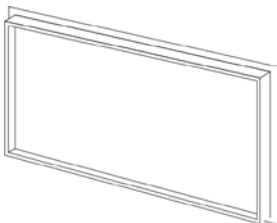
生活者 (お客様)



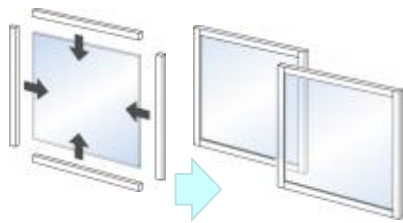
引き渡し

使用段階での製品安全対策

組立事業者 窓・サッシの組立・調整



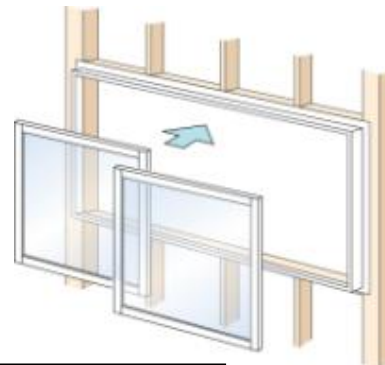
枠フレームの
組立



戸 (障子) フレームと
ガラスの組立



施工事業者 窓・サッシの施工



枠の施工
戸 (障子) の吊りこみ

組立て・取付け段階での製品安全対策

■視点1.安全な製品を製造するための取り組み

課題認識・主な取り組みポイント

YKK AP

窓・サッシの開発・製造

サッシ事業(部材販売)

窓事業(完成品販売)

生活者(お客様)

＜内なる変化＞
 実際に変化している現場の
 状況を知らない・理解不足

＜外なる変化＞
 使用者要求の多様化
 自然災害の甚大化

組立事業者

窓・サッシの組立・調整

施工事業者

窓・サッシの施工

枠フレームの
組立

戸(障子)フレームと
ガラスの組立

＜外なる変化＞
 現場技能者の高齢化
 労働者不足

枠の施工
戸(障子)の吊りこみ

【主な取り組みポイント】

- ・ 現場変化の先取りによる製品安全確保
- ・ 製品安全設計ノウハウの伝承
- ・ 部品サプライヤーとの協働体制強化
- ・ 技術者同士のコミュニケーション促進

視点1.安全な製品を製造するための取り組み

受賞ポイント: フィールドエンジニア参画による現場の実情を反映した安全設計の実現

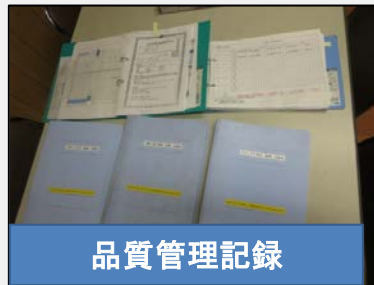
FEの主な役割: 取扱い事業者への技術支援、不具合対応 ※ 現場の情報を商品、施工要領書などの改善に活用

技術支援の例

樹脂窓 現場施工研修会



納材店事業所品質監査



不具合対応の例

引違い窓 漏水不具合



視点1.安全な製品を製造するための取り組み

受賞ポイント: フィールドエンジニア参画による現場の実情を反映した安全設計の実現
 現場変化の先取りによる製品安全確保

技術支援



不具合対応



【建築業界の変化】

- ・ 建築従事者の高齢化
- ・ 労働者不足 ・ 工法の多様化
- ・ 商品構造の変化

【社内の変化】

- ・ 現場状況を知らない開発関係者が増加

フィールド情報を開発の上流で共有

2016年度～

開発関係者の現場知識向上

現場の実情を収集・把握しているFEが、開発段階のDRに参加する体制

効果

- ・ 組立・施工性への適切な設計配慮
- ・ メンテナンス情報発信の発売同期化

若手設計者がFEに同行し一緒に業務を行い、自ら現場を体験する研修を設計者教育に組み込み

受講者の気付

- ・ 現場での商品の取扱い・施工の実情を理解
- ・ YKK APからの指示と現場の乖離を実感
- ・ 不具合の悪影響・顧客の商品に対する不満を実感

FEが各地の組立・施工事業者に製品の組立・施工の研修を蓄積してきたことが、変化の先取ができるまでに発展

■受賞による変化～社内

社内の情報共有サイト

あるFE(フィールドエンジニア)へのインタビュー記事

■FEの仕事のやりがいはどこのようなところでしょうか？
不具合対応の現場はお施主様の感情もマイナスから始まっていますから、非常に気をつかう仕事でもあります。

～(中略)～

裏方の目立たない仕事ではありますが、私たちFEは“技術者”として、自分たちが品質を守る最後の砦になるんだと強い思いを持って日々仕事に取り組んでいます。

■読者コメント

「品質を守る最後の砦となるために」とはなんと素晴らしい思いでしょうか！

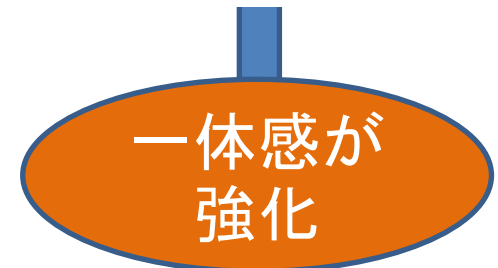
～(中略)～

会社を代表して対応する事の難しさを日々実感されると思います。あなたがたの後方の支援体制をしっかりと作りますので頑張ってください。

取り組みの
スパイラルアップ



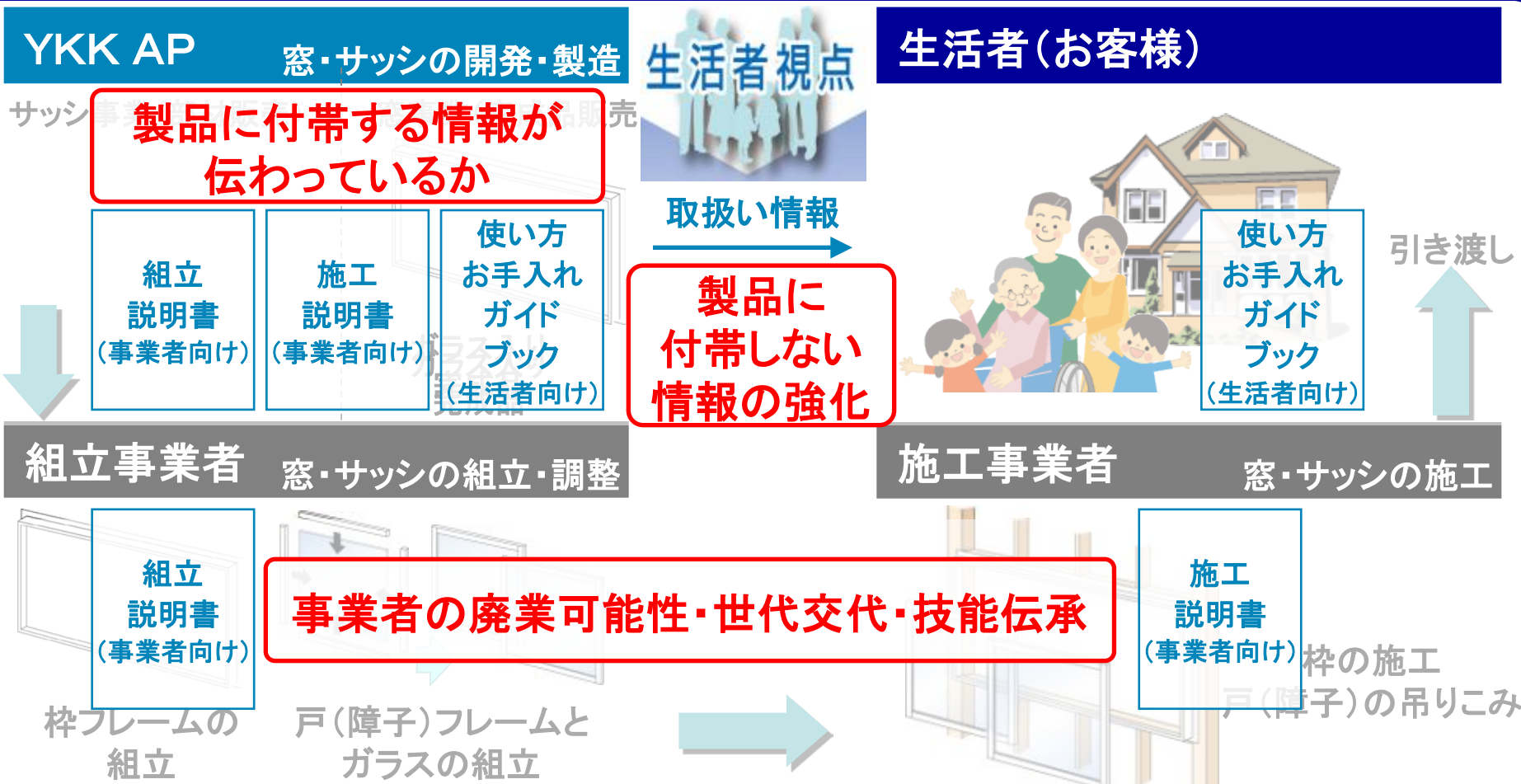
前線で活躍する
FEのモチベーション
向上！



上層部の
フォローアップ！

■視点2.製品を安全に使用してもらうための取り組み

課題認識・主な取り組みポイント



【主な取り組みポイント】

- ・ 生活者・消費者への注意啓発の継続
- ・ 施工技能者の育成
- ・ メンテナンスへの取り組み強化
- ・ 製品に付帯したフローによらない生活者・消費者(BtoC)への情報提供・発信

視点2.製品を安全に使用してもらうための取り組み

製品に付帯したフローによらない生活者・消費者(BtoC)への情報提供・発信

ホームページによる注意喚起

事故を未然に防止するために商品ごとに注意事項を掲載

安全・安心、快適のポイント

安全・安心に過ごすために

安全・安心に過ごすために

7. エクステリア商品についてのご注意



風の強いときはドアを開けて、必ず鍵をかけてください。風によりドアが急に開閉することがあり、ドアの破損やけがにつながるおそれがあります。

参考：お住まいの窓やドアへの台風や暴風雨時の備え（一般社団法人 日本サッシ協会） 



ドアポストの奥まで手を入れないでください。

ポスト口のふたに手や指をはさんだ際に、そのまま抜こうとすると、ふたの端部でけがをするおそれがあります。

特にお子様にはご注意ください。

具体的な事故例 



ホームページによる注意喚起

具体的な事故例

■品名／型式

窓手すり(手すり I 型)／T-1812-D
(製品使用期間:約20年)

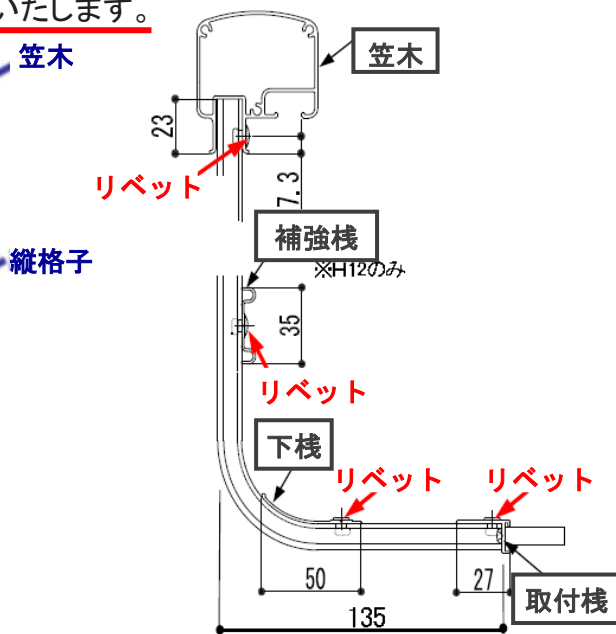
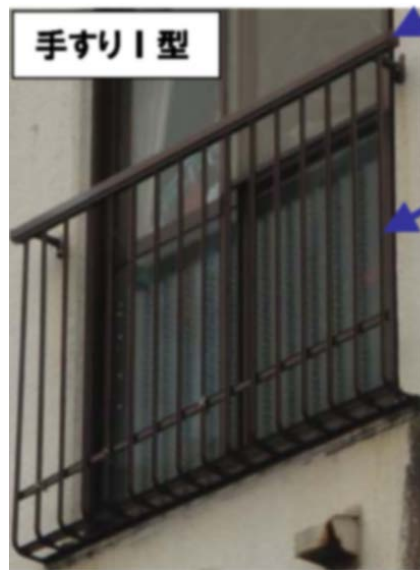
■事故の内容

幼児(5歳)が、住宅の2階に設置された窓手すりに乗り出したところ、窓手すりの縦格子が外れ落下して軽傷を負われました。

この窓手すりは、幼児が乗り出したときの荷重で、約20年にわたる使用により腐食していたリベットが破損し、窓手すりの笠木から縦格子が外れ、落下したものと推測されます。特にこの製品を設置した住宅は、塩化物源泉の湯気が上がる温泉地域にあり、アルミ合金の腐食が促進されたことも一因であったと考えられます。

経年劣化による事故とみられ、他に同種事故は発生しておりませんが、安全性を考慮して、継続的なメンテナンスをお願いいたします。

■外観図(写真等) ※消費者の方への留意していただく事項



■視点4.製品安全文化構築への取り組み

課題認識・主な取り組みポイント



製品安全活動を前線までにどうやって伝承し徹底するか、
過去の事故に直面した世代が退職を迎える、
過去事象を風化させず、教訓として引き継ぐ必要

【 主な取り組みポイント 】

- ・ トップダウンによる前線への落とし込み
- ・ 過去の製品事故情報の共有と社員教育

視点4.製品安全文化構築への取り組み

受賞ポイント: 製品安全文化を継続的に育む仕組みと実践

トップダウンによる前線への落とし込み

2014年度以降、経営陣自らが全国の製造拠点(24拠点)・営業主要拠点(12拠点)の品質会議に参画

事故の第一報は営業担当者に入る
YKK APの営業は、製造事業者の一員
製品ライフサイクル全体で製品安全確保

営業における製品安全文化醸成

- ・ 日々の品質課題を[担当役員]・[製造]・[販売]・[技術]一体で議論
- ・ [担当役員]が製品安全を含む全社品質の方向性を、責任者・実務者に直接説明

YKKグループ
コアバリュー



顧客にとって価値ある
「品質」を実現する
モノづくり

全社にコアバリュー定着を
図り、「目指す会社像」実現



社長方針 “メーカーに徹する”

メーカーの本質である
モノづくり(商品)にこだわり続ける

“生活者視点”

これからも“商品”に
こだわり続ける会社であり続ける。

お客様に喜んでいただけることを社員の喜びとしながら、
“お客様に感動をあたえる商品”をつくる。

社員の意識向上・製品安全文化の育みに大きく貢献

■2017年度以降の取り組み事例紹介

審査委員からの(視点2)に対するアドバイス

単発的な活動に終わらないように継続的にかつ、さらに広い対象者を想定した活動を行っていくことを期待します。

視点2.製品を安全に使用してもらうための **新たな**取り組み

メニュー	対象者	内容	所要時間
不具合体験型 研修会	流通店	不具合を実際に再現し、不具合の未然防止と発生した場合の対応方法を学ぶ	150分
調整研修会	ハウズビルダー ハウスメーカー 配送業者	お施主様宅を訪問する機会がある方に、商品の調整方法の基本を学んでいただき、仕事に活用していただく	120分
お手入れ セミナー	施主	購入を検討中のお施主様に、商品が長持ちするお手入れの方法をお伝えする	20分



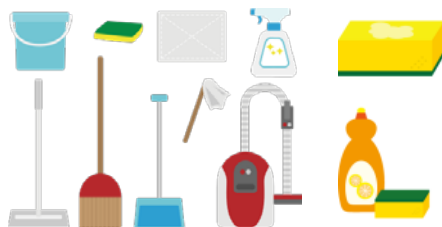
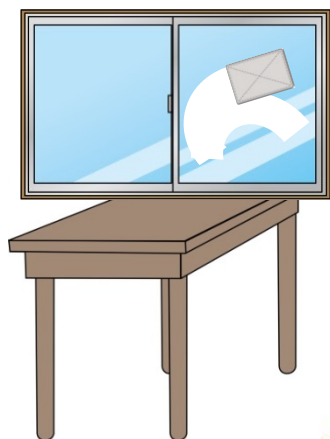
ご紹介

■2017年度以降の取り組み事例紹介

お施主様向け『お手入れセミナー』

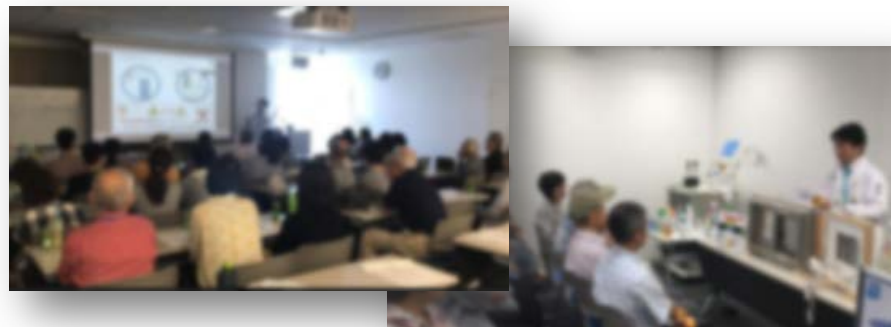
ねらい

商品が長持ちするためのお手入れ方法などを紹介しながら、安全に関する注意喚起を実施いたします



イベント会場などにおいて
実演や紙芝居、クイズを
組み合わせた約20分のセミナー

セミナー風景



セミナーの最後には、
さまざまな提案チラシと一緒に
注意喚起のチラシもお渡しする。

製品安全対策ゴールド企業としての自覚を持ち、YKKグループのコアバリューの1つである「品質にこだわり続ける」を実践し、お客様にとって価値ある「品質」を実現するモノづくりを目指し、社外との連携を深めながら全社で製品安全活動の深耕・拡大に取り組んでまいります。

品質確保の取り組み

企画、開発

生産、供給

施工、調整

YKK AP

組立業者

建築会社

品質維持の取り組み

引渡し

使用

メンテナ
ンス

使用

生活者

YKK AP・組立業者・建築会社

社外との連携

ご清聴ありがとうございました

